





厚内漁港 水産物供給基盤機能保全工事(補正・繰越)



● 施工場所：十勝郡浦幌町厚内

● 施工業者：萩原建設工業株式会社

● 施工期間：令和8年3月19日～令和8年11月30日

● 発注者：北海道十勝総合振興局 帯広建設管理部

● 進捗率：100%

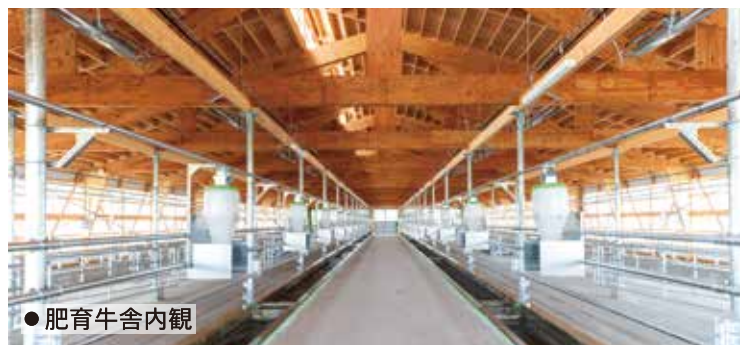
土木

本工事は、十勝の厚内漁港において、漁船の安全な航行水深を確保するために港内の土砂を浚渫する工事で、8月末に完成しました。厚内漁港は、地域経済と水産物の供給を支える重要な拠点です。荒波によって蓄積する土砂を取り除く本工事は、漁船の安全で円滑な運航を確保し、地域の基盤産業である水産業を支える重要な役割を担っています。一方、太平洋に面した当港は、急な高波や強風など海象の変化が激しく、気象の影響を直接受ける厳しい自然条件下での施工となりました。そのため、リアルタイムの海象予測システムやICT施工支援技術(浚渫)、AI監視カメラ(船舶動静・運搬路面状況)を導入し、常に変化する現場状況に先手を打ち、徹底した安全対策と品質確保に努めました。無事に竣工できたのは、帯広建設管理部様をはじめとする関係者の皆様のご協力あってのものです。厳しい自然の中で得た経験と技術を活かし、これからも地域の暮らしと地場産業の発展を支えてまいります。

現場代理人・監理技術者：中川 貴大／担当技術者：佐々木 修、清水 龍馬



一般社団法人家畜改良事業団 北海道産肉能力検定場 肥育牛舎他新築工事



● 施工場所：中川郡幕別町字猿別147-1、158

● 設計監理：株式会社高田建築設計事務所

● 施工期間：令和7年10月1日～令和8年9月30日

● 発注者：一般社団法人 家畜改良事業団

● 施工業者：萩原建設工業株式会社

● 進捗率：100%



本工事は、中川郡幕別町において、肥育牛舎・牛舎・敷料庫の3棟を建設する工事で、いずれも木造の建築物です。鉄骨は、ふん尿から発生するアンモニアガスによって腐食しやすいこともあり、近年では、環境負荷の低減や動物福祉への配慮、経済性といった多角的な視点から「畜舎の木造化」が注目され、期待が寄せられています。木材は、優れた断熱性能と湿度調節機能により、年間を通じて畜舎内の温度や湿度を快適な状態に保つ効果があります。また、湿度をコントロールすることで結露やカビの発生も抑制でき、牛の呼吸器疾患のリスク低減にも役立ちます。このたび、本工事を無事故・無災害で竣工できたのは、家畜改良事業団様をはじめとする関係者の皆様のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

現場代理人・監理技術者：神田 一樹／担当技術者：鏈水 輝

建築

令和8年度の表彰で、当社は「工事成績優秀企業」に認定いただいたほか、2つの現場がそれぞれ表彰を受けました。日々の現場で積み重ねてきた技術と、課題に向き合いながら挑戦してきた取り組みを評価いただきました。

工事成績優秀企業認定

前年度の工事成績や技術力向上に向けた取り組みなどが評価され、会社として「工事成績優秀企業」に認定いただきました。



北海道開発局 帯広開発建設部 部長表彰

～帯広広尾自動車道 大樹町 歴舟改良工事～

UAVやICT建機から得られるデータをもとに、日々の盛土量の進捗をWeb上で確認できる「Smart Construction Dashboard」を導入。さらに、ダンプトラックの位置や運搬状況をリアルタイムで把握する「Smart Construction Fleet」を活用し、施工の効率化を図りました。

また、重機の死角に入った人や物をAIが検知して警告するシステムも導入。生産性と安全性の向上にも取り組み、無事故で工事を完了した点などが評価されました。



▶ 現場代理人：奥村より

「この現場で部長表彰をいただけたことを大変うれしく思います。ICT施工への取り組みや、冬の厳しい現場条件の中での施工を無事故で完工できたのは、現場職員や協力会社の皆さまをはじめ、現場に関わっていただいたすべての方のおかげです。心から感謝しています。」

北海道開発局 i-con 奨励賞 2026

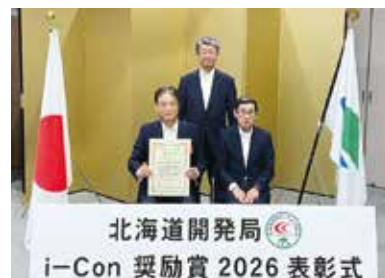
～北海道横断自動車道 陸別町 陸別改良外一連工事～

携帯電話の電波が届きにくい山間部という現場条件の中、Starlinkを活用した大規模なMesh Wi-Fiを構築し、現場全体に安定した通信環境を整備しました。

これにより、ICT建機やメタバース遠隔臨場システム「XRegion（クロスリジョン）」、3次元データなどの活用が可能に。

さらに、CIMによる3次元シミュレーションで施工前に構造物同士の干渉を確認するなど、現場の課題に合わせたICT活用を進め、生産性や品質の向上につなげました。

こうした取り組みが、他の現場への展開も期待できる先進的な事例として評価され、受賞となりました。



会社全体で積み重ねてきた技術力と、それぞれの現場での工夫や挑戦が形となって、こうして評価をいただけたことは、今後の励みにもなります。これからも、技術を導入するだけで終わらず、現場で“本当に役立つ技術”を考えながら、安全・品質・生産性の向上に挑戦していきます。



今月の表紙

撮影：営業部 仁藤 正憲

今月の表紙は、エゾシカの親子です。最近は風景写真が続いていたので、今回は動物の写真を選びました。エゾシカは北海道を代表する野生動物の1つ。アイヌの文化では、地域によって違いはありますが、シカを「ユク」と呼び、「獲物・食料」という意味もあるそうです。カムイとして扱わなかった地域もある珍しい動物ですが、「カムイではない＝大切にしない」ということではありません。自然の恵みとして大切に利用してきた存在です。現在では代表的なジビエの一つでもあるエゾシカ。食欲の秋、自然の恵みに感謝しながら、美味しいジビエをいただきたいですね。

